

令和6年度 研究科教育改善計画

研究科名	看護学研究科
研究科長名	菅原よしえ

1-(1). 令和6年度実施の研究科アンケート結果を踏まえ、研究科で改善すべき重点課題とその理由について 3 つ挙げてください。					
①	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">課題</td> <td>研究能力の向上を促す大学院学生間でのディスカッションを促進する必要がある。(一部継続)</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>博士前期課程では、研究能力の向上に対する自己評価が低い。博士後期課程でも研究能力の向上に対する自己評価が低い傾向にあるが、個人差が大きい。個別の研究指導においては満足度が高いことから、学生間のディスカッションを促進する必要がある。令和6年度に博士後期課程における集団指導(研究進捗発表会等)にて、学生からの質疑応答時間を設けることで、ディスカッションが活発になった。博士前期課程においても集団指導(研究計画発表会)等で学生からの質疑応答の機会を設ける等の工夫が必要である。</td> </tr> </table>	課題	研究能力の向上を促す大学院学生間でのディスカッションを促進する必要がある。(一部継続)	理由	博士前期課程では、研究能力の向上に対する自己評価が低い。博士後期課程でも研究能力の向上に対する自己評価が低い傾向にあるが、個人差が大きい。個別の研究指導においては満足度が高いことから、学生間のディスカッションを促進する必要がある。令和6年度に博士後期課程における集団指導(研究進捗発表会等)にて、学生からの質疑応答時間を設けることで、ディスカッションが活発になった。博士前期課程においても集団指導(研究計画発表会)等で学生からの質疑応答の機会を設ける等の工夫が必要である。
課題	研究能力の向上を促す大学院学生間でのディスカッションを促進する必要がある。(一部継続)				
理由	博士前期課程では、研究能力の向上に対する自己評価が低い。博士後期課程でも研究能力の向上に対する自己評価が低い傾向にあるが、個人差が大きい。個別の研究指導においては満足度が高いことから、学生間のディスカッションを促進する必要がある。令和6年度に博士後期課程における集団指導(研究進捗発表会等)にて、学生からの質疑応答時間を設けることで、ディスカッションが活発になった。博士前期課程においても集団指導(研究計画発表会)等で学生からの質疑応答の機会を設ける等の工夫が必要である。				
②	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">課題</td> <td>研究関連活動が狭く、大学院修学中からの学会参加の機会が少ない。(継続)</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>博士前期課程、博士後期課程共に在学中の学会等の参加が低い。研究における自己の専門性や研究活動のあり方が養われることや、当研究科の DP の1つである学際性や国際性を涵養するためにも、大学院修学中からの学会等への積極的な参加が必要である。</td> </tr> </table>	課題	研究関連活動が狭く、大学院修学中からの学会参加の機会が少ない。(継続)	理由	博士前期課程、博士後期課程共に在学中の学会等の参加が低い。研究における自己の専門性や研究活動のあり方が養われることや、当研究科の DP の1つである学際性や国際性を涵養するためにも、大学院修学中からの学会等への積極的な参加が必要である。
課題	研究関連活動が狭く、大学院修学中からの学会参加の機会が少ない。(継続)				
理由	博士前期課程、博士後期課程共に在学中の学会等の参加が低い。研究における自己の専門性や研究活動のあり方が養われることや、当研究科の DP の1つである学際性や国際性を涵養するためにも、大学院修学中からの学会等への積極的な参加が必要である。				
③	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">課題</td> <td>寒さ及び悪天候に対応する学修環境を整える。(一部継続)</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>自習時の大学院学生の研究室が寒いとの意見があった。遠隔授業(teams)を適宜活用することで、学修の助けになったとの意見があった。</td> </tr> </table>	課題	寒さ及び悪天候に対応する学修環境を整える。(一部継続)	理由	自習時の大学院学生の研究室が寒いとの意見があった。遠隔授業(teams)を適宜活用することで、学修の助けになったとの意見があった。
課題	寒さ及び悪天候に対応する学修環境を整える。(一部継続)				
理由	自習時の大学院学生の研究室が寒いとの意見があった。遠隔授業(teams)を適宜活用することで、学修の助けになったとの意見があった。				
1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。					
①	令和6年度に、博士後期課程の集団指導(研究進捗発表会)にて、学生同士のディスカッションを活性化する運営を参考に、博士前期課程での集団指導(研究計画発表会)等を工夫する。				
②	個別の研究指導における学会活動に関する情報提供と参加への助言に加え、研究活動支援費の活用を見直して、学生の学会活動への参加を促進する。				
③	<p>学修環境を整備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休日の空調および暖房は、施設利用届を行い、予約を確実にすることで、使用可能となることを、新入生・在学生オリエンテーション等で周知し、施設管理部の協力を得る。 ・teams等の活用方法の説明を行い、適切な遠隔授業の活用を維持する。 				

令和6年度 研究科教育改善計画

研究科名	事業構想学研究科
研究科長名	蒔苗耕司

1-①. 令和6年度実施の研究科アンケート結果を踏まえ、研究科で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。					
①	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">課題</td> <td style="padding: 5px;">各種申請書類（学位申請書類・旅費申請）等のオンライン化または押印の廃止</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理由</td> <td style="padding: 5px;">社会人大学院生は、日中に大学事務局に提出することが難しく、可能な限り、オンラインでの申請が可能となるような配慮が必要である。</td> </tr> </table>	課題	各種申請書類（学位申請書類・旅費申請）等のオンライン化または押印の廃止	理由	社会人大学院生は、日中に大学事務局に提出することが難しく、可能な限り、オンラインでの申請が可能となるような配慮が必要である。
課題	各種申請書類（学位申請書類・旅費申請）等のオンライン化または押印の廃止				
理由	社会人大学院生は、日中に大学事務局に提出することが難しく、可能な限り、オンラインでの申請が可能となるような配慮が必要である。				
②	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">課題</td> <td style="padding: 5px;">図書館での文献複写依頼等申請のオンライン化</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理由</td> <td style="padding: 5px;">現在は、教職員のみ「対外文献複写・相互貸借依頼」をオンライン（マイライブラリ）からできるようになっているが、大学院生は利用できないため、オンライン申請を可能し、学生が使いやすい環境とする必要がある。</td> </tr> </table>	課題	図書館での文献複写依頼等申請のオンライン化	理由	現在は、教職員のみ「対外文献複写・相互貸借依頼」をオンライン（マイライブラリ）からできるようになっているが、大学院生は利用できないため、オンライン申請を可能し、学生が使いやすい環境とする必要がある。
課題	図書館での文献複写依頼等申請のオンライン化				
理由	現在は、教職員のみ「対外文献複写・相互貸借依頼」をオンライン（マイライブラリ）からできるようになっているが、大学院生は利用できないため、オンライン申請を可能し、学生が使いやすい環境とする必要がある。				
③	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">課題</td> <td style="padding: 5px;">大学院生室の環境整備</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理由</td> <td style="padding: 5px;">使用するコンピュータに応じた使いやすい環境整備（学生のノート PC 利用を考慮したモニター接続環境の整備、個人用ロッカーの整備）が必要である。</td> </tr> </table>	課題	大学院生室の環境整備	理由	使用するコンピュータに応じた使いやすい環境整備（学生のノート PC 利用を考慮したモニター接続環境の整備、個人用ロッカーの整備）が必要である。
課題	大学院生室の環境整備				
理由	使用するコンピュータに応じた使いやすい環境整備（学生のノート PC 利用を考慮したモニター接続環境の整備、個人用ロッカーの整備）が必要である。				
1-②. 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。					
①	<p>学生・教員の押印処理が必要な申請書類の見直しを図るとともに、学務管理システムや Office365 Forms 等を活用した申請手続きを進める。また情報システムセンターにも、学生要望に対する配慮を図るよう働きかける。（学位審査に係る申請書類については検討が必要である）</p>				
②	<p>学生の要望に応じて、図書館への文献複写依頼のオンライン申請が可能となるよう、研究科から学術情報センターに要望し、検討を促す。</p>				
③	<p>学生の要望を踏まえて、大学院生室の環境整備を進める。具体的には、院生室4室のうち、懇談用の1室へのモニターの購入設置、個人用ロッカー配置等について検討するとともに、検討組織として、大学院生会を機能させるように促す。また、院生の数が増加傾向にあり、手狭な状況になっていることから、キャンパス整備委員会等々を通じて新たな大学院生の学習空間の整備についての検討を進める。</p>				

令和6年度 研究科教育改善計画

研究科名	食産業学研究科
研究科長名	井上達志

1-①. 令和6年度実施の研究科アンケート結果を踏まえ、研究科で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。					
①	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">課題</td> <td style="padding: 5px;">講義と研究・就職活動の両立支援</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由</td> <td style="padding: 5px;">複数の学生から「授業数が多く、研究や就職活動との両立が難しい」「中間発表と就活が重なる」といった声が挙がってる。また、「博士後期課程として授業が多すぎる」との指摘もある。</td> </tr> </table>	課題	講義と研究・就職活動の両立支援	理由	複数の学生から「授業数が多く、研究や就職活動との両立が難しい」「中間発表と就活が重なる」といった声が挙がってる。また、「博士後期課程として授業が多すぎる」との指摘もある。
課題	講義と研究・就職活動の両立支援				
理由	複数の学生から「授業数が多く、研究や就職活動との両立が難しい」「中間発表と就活が重なる」といった声が挙がってる。また、「博士後期課程として授業が多すぎる」との指摘もある。				
②	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">課題</td> <td style="padding: 5px;">講義の質と一貫性の向上</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由</td> <td style="padding: 5px;">「先生ごとに講義への姿勢が大きく異なる」「未習得のツール前提で進行される講義がある」とのフィードバックがあり、教育の質のばらつきが問題視されている。</td> </tr> </table>	課題	講義の質と一貫性の向上	理由	「先生ごとに講義への姿勢が大きく異なる」「未習得のツール前提で進行される講義がある」とのフィードバックがあり、教育の質のばらつきが問題視されている。
課題	講義の質と一貫性の向上				
理由	「先生ごとに講義への姿勢が大きく異なる」「未習得のツール前提で進行される講義がある」とのフィードバックがあり、教育の質のばらつきが問題視されている。				
③	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">課題</td> <td style="padding: 5px;">研究環境・設備の改善と整備</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由</td> <td style="padding: 5px;">「共用機器のメンテナンスが不十分」「暖房の不調」「夜間の照明問題」など、学修・研究環境の物理的な整備不足に関する不満が見受けられる。</td> </tr> </table>	課題	研究環境・設備の改善と整備	理由	「共用機器のメンテナンスが不十分」「暖房の不調」「夜間の照明問題」など、学修・研究環境の物理的な整備不足に関する不満が見受けられる。
課題	研究環境・設備の改善と整備				
理由	「共用機器のメンテナンスが不十分」「暖房の不調」「夜間の照明問題」など、学修・研究環境の物理的な整備不足に関する不満が見受けられる。				
1-②. 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。					
①	講義の量的負担が研究および就職活動との両立を難しくしている現状を受け、講義数・内容の見直しが喫緊の課題である。とくに修士1年次の学生にとっては、複数科目のレポートや発表準備が研究活動の時間を圧迫しているとの指摘があった。これに対応するため、講義の集中配置を避け、課題の負担や提出時期を各教員間で調整する方針を導入する。中間発表は年度内の複数回開催から、就職活動と重ならない時期に一回へ集約することも検討する。さらに、キャリア形成支援の一環として、M1の前期よりガイダンス・業界研究会・履歴書指導などを段階的に行い、学生が早期に就職活動に備えられる体制を整える。これらの取り組みは、教務委員会とキャリアセンターが連携してスケジュールを再設計し、毎年度のアンケートを通じて改善状況を確認しながら継続的に運用していく。				
②	大学院生からは、講義ごとに教員の指導方針やツール使用にばらつきがあり、学修の一貫性が損なわれているとの指摘が複数寄せられた。これに対し、まずは各教員が自身の授業目的・到達目標・進行方法を記載した詳細シラバスを作成し、学期初めに学生と共有することを徹底する。また、FD (Faculty Development) 活動の一環として、教育方法の共有会を定期的で開催し、優れた実践例を横断的に紹介する。講義内で扱うツールやソフトウェアに関しては、受講生の習熟度を事前に把握し、必要に応じて入門的な操作ガイドや補足教材を配布する体制を整える。加えて、学生による授業アンケートのフィードバックを次年度の授業改善に積極的に活用する仕組みを設けることで、教育の質の向上を継続的に図る。				
③	学修・研究における物理的環境面での課題も多くの学生から報告されている。共用機器のメンテナンス不足、教室の空調設備の不備、夜間使用時の照明対応などがその代表である。まず、全学的に共用設備の年1回以上の定期点検を実施し、使用マニュアルの整備や不具合報告フォームの常設によって、トラブル発生時の迅速な対応を可能にする。また、講義室や演習室の空調改善については、施設管理部門と連携し、改善計画を段階的に実施する。夜間に研究活動を行う学生の安全性を考慮し、廊下や階段の照明を人感センサー付きに変更するなどの物理的対応も講じる。加えて、研究・実験活動の活性化を促進するために、実験機器の使用講習会や利用ルールの周知も徹底することで、快適かつ安全な研究環境の実現を目指す。				